文学の世界

責任者・コーディネーター	人間科学科 哲学分野 林 研 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科、教養教育センター		
担 当 教 員	塩谷 昌弘 非常勤講師		
対 象 学 年	1	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 14 コマ 28 時間
期 間	前期		演習 0 コマ 0 時間
			実習 0 コマ 0 時間

・学修方針（講義概要等）

時間を超越した美しい文学は、人生のモデルともなり、人々の生きる指標やこころの支えともなる。生と死、愛と憎しみ、病と祈り、不安と恐怖、驚きと喜びなど、文学に表現されたテーマは実にさまざまであり、その表現方法も千差万別である。本講義では岩手県の文学、とりわけ石川啄木の短歌を取り上げ、その表現方法の深さと豊かさを理解し、生涯の宝となりうる文学的教養の世界への扉を開く。生きるとは自分の人生の歌を歌うことであり、他者を理解することは、他者の人生の歌に耳を傾けることである。歌ことばの理解を通して、医療人に必要な病者の歌を聴き想像力と治癒のプロセスを語る創造力を身につける。アクティブラーニングの手法を取り入れ、五感を使ったり対話をしたりしながら、短歌の魅力を理解する。

・教育成果（アウトカム）

俳句・短歌・詩・小説といったさまざまな文学のジャンルの魅力を理解し、文学における非日常的なことばが持つイメージ喚起力について体感し、石川啄木の短歌の魅力を理解する。実践的な読解能力を身につけるとともに、作品について自分のことばで考える力を養う。文学の世界を理解するために、映画、漫画、アニメーション、能楽、歌舞伎といった様々な近接ジャンルについても理解を深め、人間の創り出す物語とは何かという問題に向かい合う。附属図書館や公共図書館を利用して多くの文学に触れる。しなやかな発想で生涯にわたり文学を通じて人生のさまざまな側面について学ぶ習慣を身につける。（ディプロマポリシー：1、2、5、6）

・到達目標（SBO）

- 1.さまざまなジャンルの文学に触れ、作者の生き方や作品について理解できる。
- 2.石川啄木の短歌の魅力を伝えることができる。
- 3.歌の力を理解し、五七五七七のリズムを使った表現のコツをつかむ。
- 4.様々な価値観・考え方に触れ、それを参考にしながら、広い視野と深い洞察力を身につける。
- 5.文学の近接ジャンルにも興味を持ち、幅広い問題意識を養い育てる。
- 6.生涯にわたって短歌や本をよむ習慣を身につける。

・ 講義日程
【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/18	金	4	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>石川啄木概論——病と文学——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 石川啄木について説明することができる。 2. 文学と病の関係について説明することができる。 <p>事前学修：石川啄木について図書館やインターネットなど利用して調べる。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
4/24	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>石川啄木と結核について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 石川啄木の病の歌について説明することができる。 2. 対話のなかで他者の意見に耳を傾けることができる。 <p>事前学修：配布された石川啄木の病に関する短歌を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
5/1	木	4	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>結核と文学①（宮崎駿『風立ちぬ』から）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 結核について文化史的側面から説明できる。 2. アニメーションの豊かな世界を味わうことができる。 <p>事前学修：宮崎駿『風立ちぬ』に関する配布資料を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
5/8	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>結核と文学②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎駿『風立ちぬ』と結核との関係を説明できる。 2. 対話を通してアニメーションに触れることで、幅広い鑑賞をすることができるようになる。 <p>事前学修：前回の授業を踏まえて、宮崎駿『風立ちぬ』に関する自分の考えを箇条書きにしてまとめておく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>

5/15	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>医療従事者としての斎藤茂吉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 斎藤茂吉の短歌について説明できる。 2. 医療従事者の視点から文学を読むことができる。 <p>事前学修：斎藤茂吉についての配布資料を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
5/22	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>歌会（短歌をつくり、歌会をする）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の心情を短歌にして詠むことができる。 2. 他者の短歌を批評することができる。 <p>事前学修：歌会に関する配布資料を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
5/29	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>明石海人『白猫』を読む</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 明石海人について説明ができる。 2. ハンセン病文学について説明ができる。 <p>事前学修：明石海人についての配布資料を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
6/5	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>ハンセン病と文学①（宮崎駿『もののけ姫』から）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎駿『もののけ姫』とハンセン病の関係を説明できる。 2. アニメーションの細部から全体のモチーフを説明することができる。 <p>事前学修：宮崎駿『もののけ姫』に関する配布資料を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>

6/12	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>ハンセン病と文学②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハンセン病の歴史について説明することができる。 2. 対話を通して病と医療について考えることができる。 <p>事前学修：前回の授業を踏まえて、宮崎駿『もののけ姫』に関する自分の考えを箇条書きにまとめておく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
6/19	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>コミュニケーションとしての短歌（短歌を作る）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 短歌によるコミュニケーションについて説明することができる。 2. 贈られた短歌に返歌をかえすことができる。 <p>事前学修：和歌のルールに関する配布資料を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
6/26	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>与謝野晶子と出産——『青海波』を読む——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与謝野晶子について説明できる。 2. 与謝野晶子の子産詠について説明できる。 <p>事前学修：与謝野晶子についての配布資料を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
7/3	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>石川啄木とオノマトペ（短歌を作る）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オノマトペ表現から他者の感覚を想像することができる。 2. オノマトペを使って短歌を作ることができる。 <p>事前学修：短歌におけるオノマトペについての配布資料を読んでおく。 事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>

7/10	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>短歌とクオリティ・オブ・ライフ</p> <p>1. 他者の表現に寄り添い共感することができる。</p> <p>2. 短歌の創作活動の可能性について説明することができる。</p> <p>事前学修：クオリティ・オブ・ライフに関する配布資料を読んでおく。</p> <p>事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>
7/17	木	2	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>文学がひらくもの</p> <p>1. 文学と医療の関係について説明することができる。</p> <p>2. 文学やその近接ジャンルから様々な問題を読み取ることができる。</p> <p>事前学修：これまで配布された資料を復習し、自分の考えを箇条書きにしておく。</p> <p>事後学修：講義資料を見直して復習する。</p>

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

書籍名	著者名	発行所	発行年
指定の教科書はありません			

・成績評価方法

受講態度（30%）、感想レポート（30%）、レポート（40%）によって総合的に評価する。

・特記事項・その他

短歌創作などのアクティブラーニングを行う。
各講義の最後に次回までの事前学修のための資料を配布する。なお、第一回の事前学修は、石川啄木についてインターネット等で調べておくこと。
感想レポート、レポートについてはコメントを付して返却する。評価については、成績確定後に希望者に開示する。
事前事後学修時間はそれぞれ最低 60 分を目安とする。レポート作成時間は 180 分以上を要する。
形式的評価として、上記のように講義毎の提出物等で理解度を確認し、フィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	講義資料の提示
講義	DVD (BR) プレーヤー	1	教材の提示